

令和4・5年度 調布市教育委員会研究推進校
研究発表会

研究主題

学び合い, 支え合い, 高め合える学習集団の形成
～持続可能な組織的校内研究を通して～



令和6年1月19日(金)
調布市立第五中学校

研究構想図

研究主題

学び合い、支え合い、高め合える、学習集団の形成

徳・知・体にわたる
「生きる力」

～持続可能な組織的校内研究を通して～

教育目標

目指す生徒像
5つの力

- 他者を認め、尊重し合い、支え合おうとする生徒
- 個性を発揮し、他者と協働的に物事に取り組む生徒
- 自分の考えをもち、自分の言葉で表現する生徒
- 自ら問いをたて、よりよく解決する生徒
- 自ら取り組み、学び続ける生徒

育成を目指す資質・能力「3つの柱」(○知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等)

目指す学校像

目指す学習集団

学び合い、支え合い、高め合える学習集団

主体的・対話的で
深い学び
の実現に向けた
授業改善

目指す学習活動の
「5つの方向性」
(5つの学習活動)

相互的な
学習活動

協働的な
学習活動

自己表現的な
学習活動

問題解決的な
学習活動

主体的な
学習活動

研究の柱

「5つの学習活動」の充実を図るための3つの視点

- ① 5つの学習活動における学びの具体化
- ② 5つの学習活動に応じた多様な学習形態・手段の活用
- ③ 5つの学習活動の質を高める学習過程の充実

研究の柱

2

「5つの学習活動」を支える校内の取組

カリキュラム・マネジメント

五中授業スタイル

学びの地図

お話タイム

学校図書館の活性化

研究の柱

3

協働的な学びを目指した校内研修

教科(グループ)研修

全体研究授業

ミニ研究授業 Days

生徒・教員アンケート

教育長挨拶

調布市教育委員会教育長 大和田 正治

調布市立第五中学校は、令和4・5年度調布市教育委員会研究推進校として「学び合い、支え合い、高め合える学習集団の形成～持続可能な組織的校内研究を通して～」を研究主題とし、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んで来られました。特に、生徒の学びの姿を5つの学習活動に整理し、一人一人の学びを最大限に引き出せる「学び合い、支え合い、高め合える学習集団」を築かれたことは大きな成果です。このことは、「令和の日本型学校教育」における、一人一人の子どもを主語にする学校教育の実現に向けて必要かつ有効な取組です。

また、学習活動を学ぶ側からの視点で捉え直すことで、全ての子どもの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指すための手だての一つとなりました。本研究の成果が、市内はもとより、多くの学校において還元され、授業改善等に役立つことを期待しております。

本研究の推進に御尽力くださいました、小坂 力校長先生をはじめとする教職員の皆様、御指導を賜りました講師の皆様、心より感謝申し上げます。

組織的な授業改善推進のポイント

全教員で同じ目標に向かって、授業改善を図りたいのですが...

「カリキュラム・マネジメント」の充実を図りましょう!



1 目指す生徒像を明確にする

教育目標

生徒の実態

教員間の協議

目指す生徒像

教育目標を踏まえ、
教員の願いを共有する

生徒の良さ、課題を
共有する

目指す生徒像に
ついて協議する

教員同士の「対話」
を通して決定する

2 目指す生徒像を達成するための過程を考える

各教科で「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を図るだけでいいのかな?

「一人一人の学びを最大限に引き出す学習集団」って、どんな集団だろう?



生徒の学びの場である教室を、「一人一人の学びを最大限に引き出せる学習集団」にすることが大切だよ!

目指す学校像を踏まえて、明確に捉え直してみよう!

授業改善

目指す学習集団の形成

主体的・対話的で
深い学びの推進

目指す生徒像達成

3 組織的な授業改善を推進する手だてを考える

目指す生徒像の達成に向けて、
授業改善のプロセスの在り方
について考えてみよう!



「学習集団」の形成には、学校全体で「生徒主体」の授業改善に取り組まないと...どうやって教科の枠を越える?

主体的・対話的で深い学び
の視点に立った授業改善

目指す
「5つの学習活動」
で整理する

5つの学習活動

協働的

相互的

主体的

自己
表現的

問題
解決的

4 教科横断的な指導を充実するための方策を考える

- ① 「5つの学習活動」の充実を図るための3つの視点
- ② 「5つの学習活動」を支える校内の取組
- ③ 協働的な学びを目指した校内研修



「5つの学習活動」を
研究の中心にしよう!

3つの方策を研究の柱にし
て進めよう!

目指す学習活動の5つの方向性（5つの学習活動）

相互的 他者を認め、尊重し合い、支え合おうとする学習活動



互いの考えを
比較する



多様な情報を
収集する

協働的 個性を発揮し、他者と協力的に物事に取り組む学習活動



自分の思いや
考えと結びつける



共に考えを
創り上げる

自己表現的 自分の考えをもち、自分の言葉で表現する学習活動



自分の考え
を形成する



思考を表現に
置き換える



多様な手段
で説明する

問題解決的 自ら問いをたて、よりよく解決する学習活動



思考して
問い続ける



自分と
結び付ける



協働して
課題解決する



新たなものを
創り上げる

主体的 自ら取り組み、学び続ける学習活動



興味や関心
を高める



見通し
をもつ



粘り強く
取り組む



振り返って
次へつなげる



教員間の共通認識を図るために、
「5つの学習活動」を定義付けます。

NITS※のピクトグラムを用いて、実現したい
生徒の姿を具体的に捉え直してみよう。

※NITS・独立行政法人教職員支援機構

研究の柱Ⅰ 「5つの学習活動」の充実を図るための3つの視点

視点Ⅰ 学びの具体化

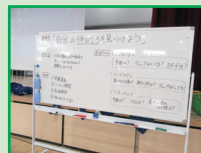
各教科の目標や内容等を踏まえ、「5つの学習活動」において、実現したい生徒の学びの姿を具体化する。

発問・課題の工夫

- ・学習活動の「目的」の明確化
- ・何について、どのように考え、話し合うのか
- ・「考える視点」、「話し合いの視点」の提示

本時の目標

「ハードル走の運動について、自らの動きの動画と手本動画を比較し、既習事項の知識をもとに、自他の課題や成果を言葉や文章で表す。」



技能のポイントを提示



技能のポイントを踏まえて、2つの動画を比較する



視点Ⅱ 多様な学習形態・手段の活用

各教科で行う「5つの学習活動」において、実現したい生徒の学びの姿を生むために効果的な学習形態を工夫するとともに、多様な学習手段を活用する。

学習形態の工夫

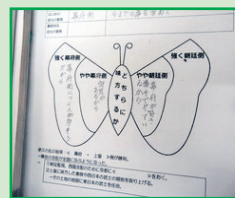
- ・個人
- ・ペア
- ・グループ
- ・全体

学習手段の工夫

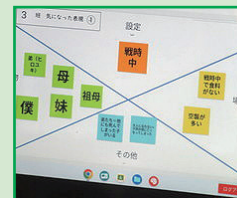
- ・思考ツール
- ・一人1台端末
- ・図、グラフ
- ・ホワイトボード
- ・ワークシート
- ・ノート 等



4人以下の活動



思考ツール



一人1台端末

視点Ⅲ 学習過程の充実

1単位時間の授業、単元など内容や時間のまとまりをデザインし、各教科等の学習過程の充実を図り、「5つの学習活動」の質を高める。

学習過程の工夫

- ・インプットとアウトプットのバランス
- ・学習活動のつながり
- ・「5つの学習活動」の効果的な位置付け



相互的
互いの考えを比較する



自己表現的
思考を表現に置き換える



主体的
振り返って次へつなげる

コンピテンシーベースによる
カリキュラム・マネジメント

各教科の実践の充実や教科間のつながりの深化を図る

➡5つの学習活動について、教科の特質を踏まえた見方・考え方を反映させた方向性を各教科で捉え直した。

令和5年度 校内研究

令和5年9月28日 版

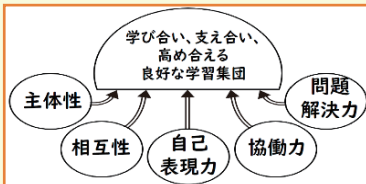
各教科において目指す学習活動の方向性(5つの学習活動)

	相互的	協働的	自己表現的	問題解決的	主体的
	他者を認め、尊重し合い、支え合おうとする学習活動	個性を発揮し、他者と協働的に物事に取り組む学習活動	自分の考えをもち、自分の言葉で表現する学習活動	自ら問いをたて、よりよく解決する学習活動	自ら取り組み、学び続ける学習活動
国語	自分と異なる意見を積極的に取り入れ、自分の考えを広げたり深めたりする	他者とのコミュニケーションを通して様々な意見を共有し発展させていく	相手や状況に応じて自分の考えが正確に伝わるように工夫して表現する	問題意識をもって課題に取り組む、よりよい答えを導く	既習の知識と関連付けて学び、学んだことを今後の学習や生活に生かす
社会	自分の意見をもつだけでなく、他者の意見を積極的に取り入れる	話し合い活動を通して、多面的・多角的な考えを構築する	資料や学んだことをもとに、自分の考えをもち、論理的に説明する	得た知識をもとに、自らの社会参画の在り方を模索し、より良い社会を形成する	学んだことから、更に興味・関心をもち、自ら調べなど学習を深める
数学	他者の考え方を理解しようとし、利用したり、深めたりする	異なる考えを組み合わせ、より良い学びを生む	途中式などを使い、自分の考えを、他者に伝わるように表現する	新たな課題に対して、既習事項に帰着させ、解決する	好奇心をもち、見通しをたて、粘り強く、最後までやり抜く

学びの地図

生徒との共通認識を図る

➡ 目指す生徒像を、目指す学習集団を築くために必要な「5つの力」として置き換え、生徒に示した。



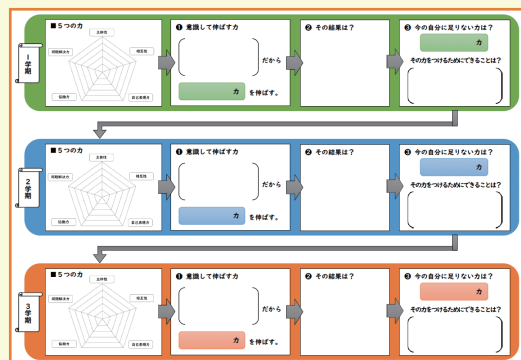
・身に付けた力を俯瞰した上で、**学びを調整する**

・自分なりの目標をもって学校生活を送ることができるよう、自らの学習状況やキャリア形成と関連付けながら振り返る。

表面 →
(美術部生徒作)



⇐ 裏面



五中授業スタイル

主体的・対話的で深い学びの視点に立った

組織的な授業改善の指針

- ① 自ら学べるよう学習に見通しがあり、ねらいを明確にする。
- ② 何ができるようになったかを確認する「振り返り」の充実
- ③ 思考ツールの活用の充実
- ④ 一人1台端末の有効活用による個別最適な学びの充実
- ⑤ 話し合い活動は「4人以下」で行い協働的な学びの充実
- ⑥ 評価規準を明確にした「指導と評価の一体化」

お話タイム

対話的・協働的な学びの習慣を身に付ける

➡毎週水曜日の朝(10分間),お話タイムを実施

生徒が話したいことを話し合う時間

➡お題は生徒会役員本部が中心となって作成

「お話タイム」の約束事

- ① 4人以下(話し合い班)で話し合う。
- ② 自分の考えを理由とともに伝え、聴き合う。
- ③ 必ず一人1回は発言をする。
- ④ 友達の発言を否定しない。
- ⑤ テーマと関係ない話はしない。
- ⑥ 楽しく話すのはいいが、ぶざけて話すのはNG。



生徒の声(生徒会役員選挙より)

私は「生徒同士で助け合える学校」を目指し、活動していきます。そのために、水曜日のお話タイムを活用し、気軽に意見を言え、アドバイスできる雰囲気を作っていきたいです。意見を言いやすい環境をつくることで、日常での話し合いが増え、「生徒同士で助け合う」ことが増えていくと思います。

学校図書館の活性化

課題解決のための情報活用能力の育成

授業・調べ学習支援

- ◆ 教科指導に有効な蔵書の整備、充実
- ◆ 図書館に「情報カード」や「思考ツール」を常備

総合的な学習の時間

- ◆ 「メディアリテラシー」の実施



↑学校図書館内

短期的ではなく、校内研究を
持続可能なものにしたい・・・



ポイントは、校内研修会のねらいの明確化・共有！
そして、協働的な学びの充実です！

「5つの学習活動の充実」に向けた、
校内研修会の取組を充実してみよう！

教科（グループ）研修

年度当初

- ◆研究主題の共通認識
- ◆各教科における5つの学習活動の方向性を設定



話し合ったことを全体で共有。

各学期末

- ◆3つの視点における成果と課題



生徒・教員アンケートも活用。

教員の声

- 漠然とした授業改善から、明確に取り組める内容ができて、授業改善の質が高まった。
- 研修の場で、授業について話し合ったり、情報共有できたりしたので、自分の授業づくりに有効だった。

全体研究授業

学習指導案

- ◆3つの視点を可視化する学習指導案の活用

授業者の意図が共有できるとともに、A4を2枚でまとめることで、授業者の負担軽減にもつながる。

各教科において目指す学習活動の方向性

教科	学習活動の方向性
国語	読者の感情や考えを読み取り、自分の考えと対比し、表現の工夫を読み取る。
算数	数や図形の性質や関係を読み取り、自分の考えと対比し、表現の工夫を読み取る。
理科	自然現象の仕組みや関係を読み取り、自分の考えと対比し、表現の工夫を読み取る。
社会	社会現象の仕組みや関係を読み取り、自分の考えと対比し、表現の工夫を読み取る。
英語	英語の表現や文化を読み取り、自分の考えと対比し、表現の工夫を読み取る。
音楽	音楽の表現や文化を読み取り、自分の考えと対比し、表現の工夫を読み取る。
美術	美術の表現や文化を読み取り、自分の考えと対比し、表現の工夫を読み取る。
体育	体育の表現や文化を読み取り、自分の考えと対比し、表現の工夫を読み取る。
保健	保健の表現や文化を読み取り、自分の考えと対比し、表現の工夫を読み取る。
家庭	家庭の表現や文化を読み取り、自分の考えと対比し、表現の工夫を読み取る。
総合	総合の表現や文化を読み取り、自分の考えと対比し、表現の工夫を読み取る。

実現したい生徒の学びの姿

視点	実現したい生徒の学びの姿
視点1	自分の考えを明確に表現し、他の人の考えと対比し、表現の工夫を読み取る。
視点2	自分の考えを明確に表現し、他の人の考えと対比し、表現の工夫を読み取る。
視点3	自分の考えを明確に表現し、他の人の考えと対比し、表現の工夫を読み取る。

協議会

- ◆3つの視点を踏まえた協議

< Jamboard を用いた協議 >

緑・「よかった点」 ピンク・「課題点」 黄色・「改善案」



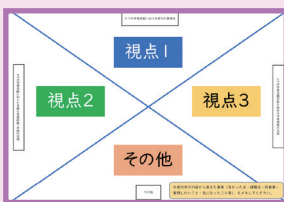
授業で使った思考ツールの改善案について、各グループが提案。



「協議中の先生の姿勢・表情が
素敵」との声もいただいた。

研究授業

- ◆2年間で全教科の研究授業を実施



3つの視点に沿って記録用紙にメモをとることで、その後の協議が活発に。

校内公開授業「ミニ研究授業Days」

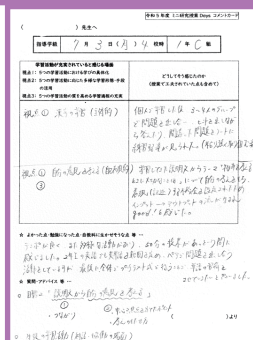
- ◆お互いの授業を自由に参観
- ◆日頃の授業参観を重視
- ◆3つの視点を踏まえた授業参観

教員の声（参観報告より）

- 話し合い活動では、目的や内容が明確に示されていたから、生徒の発言が的を射たものとなり、少ない時間で個々の考えが共有され、広がっていた。
- 1単位時間で完結するような流れのある授業づくりができるようになったと感じた。そのためには、教材をきちんと理解し、構成していかなければいけない。
- これまでの科学者の考え方を比較し、正しい説を生徒自らが導いていた。知識をただ定着させるだけでなく、既習事項と関連させるような工夫を見習いたい。



↑
コメントカードを使って、授業者に
フィードバックしている様子。



↑
コメントカード

研究成果資料

全体に関する項目

■ あてはまる
 ■ ほぼあてはまる
 ■ あまりあてはまらない
 ■ あてはまらない

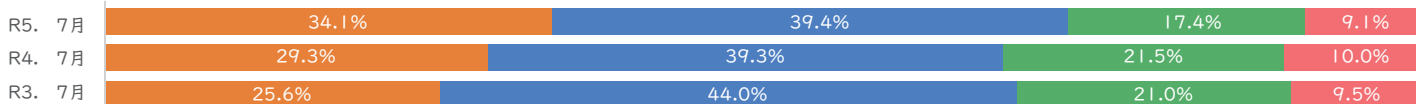
(1) 教室は、級友と学び合ったり、支え合ったり、高め合ったりできる場所である【学校評価アンケート】



(2) あなたは、学校へ楽しく通っている【学校評価アンケート】



(3) (学習の動機) 友達や先生と学習するのが楽しいから【児童・生徒の学力向上を図るための調査】

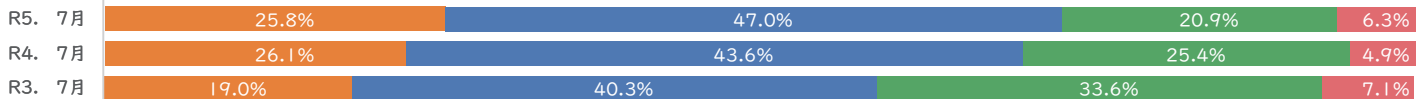


(4) 目標をもって学校生活を送っていますか【学校評価アンケート】

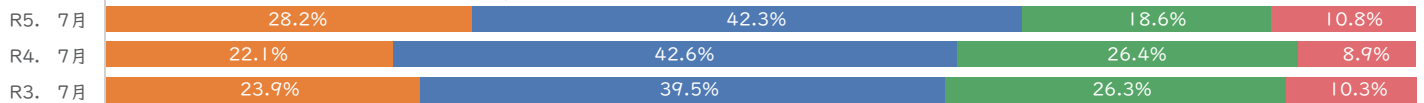


目指す生徒像に関する項目

(主体性) 難しいと感じる問題でも、最後まであきらめずに取り組んでいる【児童・生徒の学力向上を図るための調査】



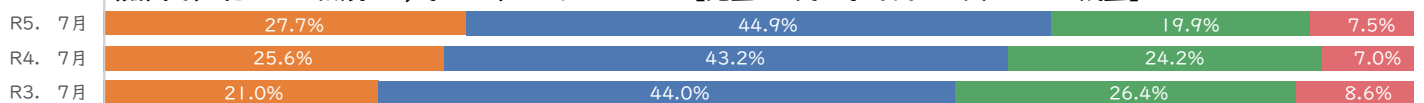
(相互性) 他の人と意見が違った時は、質問して相手の考えを確認している【児童・生徒の学力向上を図るための調査】



(自己表現力) 自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている【児童・生徒の学力向上を図るための調査】



(協働性) 他の人と相談して、考えを深めようとしている【児童・生徒の学力向上を図るための調査】



(問題解決力) どうしてそうなるのかという理由を考えながら学習している【児童・生徒の学力向上を図るための調査】



教員の意識調査

(1) 教科の授業であなたが目指す生徒像は、本校の他の教員と同じ方向性だと思う【教員アンケート】



(2) ミニ研究授業Daysは、自らの授業改善に役立ったか【教員アンケート】



(3) 「5つの学習活動」の充実に向けた教科部会は、自らの授業改善に役立ったか【教員アンケート】



ご指導いただいた先生方

國學院大學 人間開発学部 初等教育学科	教授	田村 学	先生
東京造形大学	教授	山田 猛	先生
東京理科大学 教職教育センター	特任教授	平岡 盛仁	先生
調布市教育委員会指導室	統括指導主事	門田 英朗	先生
東京都教育委員会	指導主事	高橋 康一	先生

教職員

校長	小坂 力	保健体育	経営	教諭	大塚 浩人	理科	3-C
副校長	沼本 邦弘	数学	経営	主任教諭	後藤 ひより	保健体育	3-D
主幹教諭	田中 邦慈	保健体育	全学年	主任教諭	太田 大地	社会	3-E
教諭	藤山 洋平	技術	1-A	主任教諭	山本 恵子	英語	3-F
教諭	山本 翔也	国語	1-B	教諭	宮下 和	数学	3-G
主任教諭	伊藤 里香	数学	1-C	主幹教諭	岡村 直樹	数学	3年
主任教諭	築瀬 尚子	理科	1-D	主任教諭	崎元 正裕	国語	3年
主任教諭	磯 亜貴子	保健体育	1-E	教諭	友部 満	国語	3年
主幹教諭	橋本 浩	英語	1-F	教諭	浦塘 泉岐	家庭科	3年
教諭	加藤 夏萌	英語	1-G	養護教諭	井久保 礼乃	養護	
教諭	矢萩 広人	数学	1-H	講師	加藤 祐志	美術	
主任教諭	野澤 沙知	理科	1年	講師	橋本 理紗子	音楽	
主任教諭	岩田 歩	英語	1年	講師	和田 遼	保健体育	
主任教諭	三品 友里	社会	1年	ALT	アントワンカリー	英語	
教諭	上村 花音	音楽	1年	特支専門員	藤光 かおる		
主任教諭	伊藤 智美	社会	2-A	都事務	谷田部 咲良		
主任教諭	今津 光司	美術	2-B	市事務	小野 真理		
教諭	伊藤 舞香	英語	2-C	市技能主事	渡部 拓也		
教諭	谷 哲朗	理科	2-D	市技能主事補助	栗原 勇三郎		
主任教諭	大島 弘美	英語	2-E	市栄養士	松永 由里子		
教諭	正富 元輝	保健体育	2-F	市司書	木全 千鶴		
主幹教諭	関根 賢之	社会	2年	都 SC	坂根 恭子		
主任教諭	鬼頭 昭	数学	2年	市 SC	佐伯 智美		
教諭	中森 敦子	国語	2年	副校長補佐	沖田 美絵子		
教諭	丸田 和慈	数学	2年	市 SSS	圓地 芳子		
教諭	宮沢 大地	理科	3-A	市 SSS	杉本 まき子		
指導教諭	加藤 真由子	英語	3-B				

学校長挨拶

校長 小坂 力

変化の激しい現代において、様々な事象に対応できる力を培うことは大変重要なことと考えています。現行の学習指導要領では、生徒が将来社会に出たときに必要な3つの資質・能力「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を各教科を通して身に付けることが示されています。そのため、令和の日本型学校教育の構築を目指して「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた授業改善が必須です。

本校では、2年間に渡り、「学び合い、支え合い、高め合える学習集団の形成～持続可能な組織的校内研究を通して～」というテーマで研究を進めて参りました。学校として目指す生徒像を明確にして、一つの方向性に向かうことが生徒の学びには大切と考え、実践して参りました。

2年間の実践を通して、生徒の力が伸び、生き生きと学習に向かう実態を様々な場面で感じられるようになりました。今後も授業改善を継続し、自分の力を伸ばし、社会に貢献できる生徒の育成を目指し続けていきたいと考えています。

最後になりましたが、本校の研究に御指導くださいました先生方、また、このような研究の機会を与えていただき、温かく御指導いただいた調布市教育委員会に感謝申し上げます。



調布市立第五中学校

〒182-0035 東京都調布市上石原3丁目27番地1
TEL 042-484-1311 FAX 042-499-4193



本校ホームページ
はこちら →

生徒会キャラクター
「五チユン太」

